論語（2）

『論語』は、今から二千五百年以上前の古代中国の思想家・※孔子と、その弟子たちの言行録。孔子は仁や礼にもとづく政治を理想として、諸国に自らの思想を説いて回った。当時の混乱した時代にあってはその考えは受け入れられなかったが、孔子の教えはのちに儒教として広まった。

①子曰はく、「学びて時に之を習ふ、②亦説ばしからずや。
言われることには、学んで、機会があるごとに復習する、
朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。
友が遠方から訪ねてくる、
人知らずして慍みず、亦君子ならずや。」と。
世の人が自分を認めてくれなくても不満をいだかない、なんと徳の高い人格者ではないか。

子曰、「学而時習之、不亦説乎。有朋自遠方来、不亦楽乎。人不知而不慍、不亦君子乎。」（※学而）

子曰はく、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。
私は十五歳にして学問を志した。三十歳にして思想の基礎が確立した。
四十にして惑はず。五十にして天命を知る。
惑うことがなくなった。天から与えられた自らの使命を自覚した。
六十にして耳順ふ。
他人の言葉を素直に聞き入れることができるようになった。
七十にして心の欲する所に従へども、矩を踰えず。」と。
心の望むままに行動しても、人の道を外れることがなくなった。

子曰、「吾十有五而志于学。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而従心所欲、不踰矩。」（為政）

子曰はく、「③故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし。」と。
師となる資格がある。

子曰、「温故而知新、可以為師矣。」（為政）

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。
学ぶだけで自ら考えることがなければ、明確に理解することができない。
思ひて学ばざれば則ち④殆し。」と。
自分で考えるだけで学ぶことがなければ、危険である。

子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」（為政）

※孔子…春秋時代の魯の国の思想家で、名は丘。一般に敬称で孔子と呼ばれる。
学而…論語の各編は、「子曰」を除いた各編の初めの句から名付けられる。「為政」も同様。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「子」の説明として適当なものを選びなさい。

ア　子どもを表す言葉で、ここでは弟子を指している。
イ　相手を指す語句で、ここでは聞き手を指している。
ウ　男子に対する敬称で、ここでは孔子を指している。

〔　　〕

(2) ――線②「亦説ばしからずや」の意味を選びなさい。

ア　もう一度喜ぶことではない
イ　なんとうれしいことではないか
ウ　さらに説明が必要である

〔　　〕

(3) 【　】の箇所は、年齢を表す言葉の由来となった。次の年齢を表す言葉をそれぞれア～カから選びなさい。

十五歳〔　　〕　三十歳〔　　〕　四十歳〔　　〕
五十歳〔　　〕　六十歳〔　　〕　七十歳〔　　〕

ア　志学　イ　耳順　ウ　従心
エ　而立　オ　知命　カ　不惑

(4) ――線③「故きを温めて新しきを知れば」の意味を選びなさい。

ア　昔からの友との旧交を温めて、新しい知人ができるようになれば
イ　過去のことは捨て去ってしまい、より新しいことを知るようにすれば
ウ　古い物事や学問に習熟して、そこから新たな知識が発見できるようになれば

〔　　〕

(5) ――線④「殆し」とあるが、なぜ危険だといっているのか。適当なものを選びなさい。

ア　自分の考えだけに頼っていると、独断に陥ってしまうから。
イ　人の意見ばかり聞いていると、考えがまとまらないから。
ウ　先人の知識を学んでも、それが正しいとは限らないから。

〔　　〕